

## 上位5位は昨年と同じ品種、平成21年産水稻の品種別収穫量～農水省統計部

農水省統計部は2月25日、平成21年産水稻の品種別収穫量について公表した。収穫量の上位5品種については、前年産と同じで順位に変化はなかった。第1位は「コシヒカリ」で309万4,000トン（前年産対比96.4%）と減少。全収穫量に占める割合（シェア）は36.5%（同+0.1ポイント）となった。作付面積では昭和54年に「日本晴」を抜いてから、収穫量は調査開始の平成14年から連続で1位を保っている。

2位は、「ひとめぼれ」84万2,700トン（前年産対比97.9%）、シェアは10.0%（前年まで3年連続9.8%）。福島（同比79.8%）、秋田（同比96.4%）の収穫量が減少する中、主産地である宮城県の収穫量が増加（同比103.4%）。岩手（同比100.7%）、山形（同比105.9%）など各県も前年産を上回った。

3位は3年連続「ヒノヒカリ」で80万5,300トン（同97.0%）、シェアは9.5%（同比+0.1ポイント）となった。

4位は、「あきたこまち」65万6,700トン（同比91.8%）、シェア7.8%（同▲0.3ポイント）。主産地である秋田県（同比91.3%）、岩手県（同比92.9%）の収穫量が前年産を下回ったことが影響した。

5位は、「はえぬき」25万8,400トン（同92.2%）、シェア3.1%（同▲0.1ポイント）。その結果、上位5銘柄のシェアは、66.8%（同比66.9%）となった。

また、都道府県別に収穫量が1位の品種は、「コシヒカリ」22府県（前年同）、次いで「ヒノヒカリ」11府県（前年12府県）、「ひとめぼれ」、「キヌヒカリ」が各2県（前年同）の順となり、「ヒノヒカリ」のみ1県減少したが、他は前年産と同じ結果となっている。

なお、もち米は、作付面積5万7,300ha（前年産対比103.2%）と増加したが、北海道の不作の影響から収穫量は29万2,200トン（同97.5%）と低下した。作付面積は、公表された主要5道県のうち、熊本以外すべてで増加したが、10a当たりの収量が九州以外で減少し、特に北海道は収穫量が昨年の520kgから365kgと大きく減少（前年産比70.2%）した。

（平成21年産水稻の品種別収穫量は、下記URLへ）

[http://www.maff.go.jp/j/tokei/pdf/syukaku\\_suitou\\_09.pdf](http://www.maff.go.jp/j/tokei/pdf/syukaku_suitou_09.pdf)